

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 アースゲル
会 社 クニミネ工業株式会社
住 所 東京都千代田区岩本町一丁目 10 番 5 号
電 話 番 号 03-3866-7251
FAX 番 号 03-3866-2256
E - m a i l 弊社ホームページよりお問い合わせください。 <https://www.kunimine.co.jp/toiawase/>
緊急連絡先 03-3866-7251
推 奨 用 途 土木基礎（遮水を含む）等
使用上の制限 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性 粉末状製品であるため、粉じんを吸入しやすい。
特有の危険性有害性 粉じんの吸入ばく露は、人の呼吸系に影響を及ぼす。
GHS 分類
健康に対する有害性 生殖細胞変異原性 区分 2
発がん性 区分 1A
特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）
注）上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する。なお、これらに該当する場合は後述の 11 項に記載した。

ラベル要素

絵表示



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：

H341 遺伝性疾患のおそれの疑い

H350 発がんのおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器、免疫系、腎臓）

注意書き：

安全対策 P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じんを吸入しないこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙はしないこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。

応急処置 P308+P313 ばく露、又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
P314 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

保管(貯蔵) P405 施錠して保管すること。

廃棄 P501 内容物、容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質 (UVCB 物質^{※1})

化学名または一般名 活性化ベントナイト

GHS 分類に寄与する成分 結晶質シリカ (石英及び/またはクリストバライト等) : 30-50 重量%程度含む。
(不純物・添加物等も含む)

※1 UVCB 物質 = 「組成が未知の又は変動する物質、複雑な反応生成物又は生物由来物質」

成分名	CAS RN. ^{※1}	化審法官報公示 整理番号	安衛法通知 政令番号	化管法 管理番号	備考
活性化ベントナイト	1302-78-9	非該当	非該当	非該当	化審法では運用通知に基づき、新規化学物質として取り扱わない。 CAS.RN については天然ベントナイトと区別された登録はない。
結晶質シリカ (石英及び/またはクリ ストバライト)	石英 14808-60-7 クリストバライト 14464-46-1	1-548	規則別表 第 2 の 578	非該当	UVCB 物質であるベントナイトの構成成分として 含まれる夾雑鉱物の 1 種。

※1 CAS Registry Numbers have not been verified by CAS and may be inaccurate.

(CAS RN は CAS によって検証されていないため、不正確である可能性がある。)

※ 記載なき成分は国内法令によって情報伝達が求められる物質ではないか、含有率が通知据切値未満である。

4. 応急措置

吸入した場合 清浄な水でよく口の中を洗浄し、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安静に努める。症状が回復しない場合は、医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 付着したところや皮膚接触した部位を多量の水で十分に洗い流すこと。皮膚刺激が生じた場合は医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合 清浄な水でよく口の中を洗浄する。状況に応じて医師の診断/手当てを受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 特になし

火災時の特有の危険有害性 知見なし

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の特別な保護 適切な空気呼吸器、防護服 (耐熱性) を着用する。

及び予防措置

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業に際しては、適切な保護具を着用し、粉じんを吸入しないようにする。

水に濡れると滑りやすくなるため、転倒などに注意する。

環境に対する注意事項

地下水の汚染を防ぐ。物質が排水路・水路に流入することを防ぐ。環境影響情報の詳細については「12. 環境影響情報」を参照する。重大な漏出が避けられない場合には地方自治体に連絡する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。漏出物は飛散させないように掃き集め、又は掃除機などで吸引して適切な廃棄容器に回収する。湿らしてもよい場合には、粉じんを防ぐために湿らしてから回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の措置を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

皮膚と接触しないこと。

眼に入れないこと。

接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後は手洗い、うがい、洗顔等を十分行う。

保管

安全な保管条件

冷乾所にて保存すること。

水濡れを避けること。

安全な容器包装材料

湿気を避ける容器/包材を使用する。

8. ばく露防止措置及び保護措置

管理濃度	土石、岩石、鉬物の粉じん	$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$	(mg/m ³)
		E : 管理濃度	Q : 遊離ケイ酸含有率 (%)

許容濃度 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 (2024 年度)

吸入性粉じん (結晶質シリカ)	0.03 mg/m ³
-----------------	------------------------

吸入性粉じん (第 1 種粉塵 : ベントナイト)	0.5 mg/m ³
---------------------------	-----------------------

総粉じん (第 1 種粉塵 : ベントナイト)	2.0 mg/m ³
-------------------------	-----------------------

設備対策 粉じんが作業場の空気を汚染しないように、局所集塵装置の設置や設備の密閉化又は全体排気を適正に行うことが望ましい。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗眼及び身体洗浄設備を必要に応じて設置し、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器用保護具	状況に応じた防じんマスクなどを着用する。
手の保護具	状況に応じた保護手袋などを着用する。
眼・顔面の保護具	状況に応じた保護眼鏡、防災面などを着用するのが望ましい。
皮膚及び身体の保護具	状況に応じた顔面用保護具、保護衣（長袖作業着）、安全靴など着用する。
適切な衛生対策	取扱い後の洗顔、手洗い、うがいを励行する。 手袋およびマスク等の保護具は定期または使用の都度手入れを行う。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（粉末）
色	灰白色～灰黄色
臭い	無臭
融点/凝固点	1100℃以上
沸点または初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	固体のため該当しない。
引火点	固体のため該当しない。
自然発火点	固体のため該当しない。
分解温度	データなし。
pH	9-11（2g/100mL 懸濁液）
動粘性率	固体のため該当しない。
溶解度	水に不溶。
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし。
蒸気圧	データなし。
密度及び／又は相対密度	相対密度（真比重）約 2.6
相対ガス密度	固体のため該当しない。
粒子特性（粒子サイズ）	データなし。
その他（かさ比重）	かさ比重 0.70-0.95

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い上では、安定で反応性はない。
化学的安定性	通常の手扱い条件では安定している。
危険有害反応可能性	知見なし
避けるべき条件	知見なし
混触危険物質	知見なし
危険有害な分解生成物	知見なし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	データ不足のため分類できない。
急性毒性（経皮）	データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	デ-タ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	デ-タ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	デ-タ不足のため分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	デ-タ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	本製品は政府による GHS 分類結果(2015)において、区分 2 と分類された結晶質シリカを 1%以上含有するため、区分 2 とした。
発がん性	本製品は政府による GHS 分類結果(2015)において、区分 1A と分類された結晶質シリカを 0.1%以上含有するため、区分 1A とした。
生殖毒性	デ-タ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	デ-タ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	本製品は政府による GHS 分類結果(2015)において、区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)と分類された結晶質シリカ（石英）を含有するため、区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。
誤えん有害性	デ-タ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	情報なし。
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし。
残留性・分解性	情報なし。
生体蓄積性	情報なし。
土壌中の移動性	情報なし。
オゾン層への有害性	本品にはモントリオール議定書の附属書に列記されている成分は含まれないため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄するときは内容物を完全に除去した後に処分する。なお、処分に際しては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等に従う。

14. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	非危険物のため非該当
	品名（国連運輸名）	非危険物のため非該当
	国連危険有害性クラス	非危険物のため非該当
	副次危険性	非危険物のため非該当
	容器等級	非危険物のため非該当
国内規制	陸上規制情報	消防法、道路法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法、港則法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。

安全対策 運搬に際しては容器の破損、不足、漏れ等のないことを確かめる。
転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	第 57 条 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物、リスクアセスメント対象物 安衛則 別表第 2 の 578 【結晶質シリカ】 安衛則 第 577 条の 2 作業記録等を 30 年間保存すべきがん原生物質 【結晶質シリカ】
	第 22 条の 1 健康障害を防止するため必要な措置 粉じん障害防止規則 別表第 2 特定粉じん作業 【粉状の鉱石】
じん肺法	第 2 条 粉じん作業 （施行規則第 2 条別表）【粉状の鉱石】
廃棄物処理法	廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 2 条
水質汚濁防止法	施行令第 3 条の 3 指定物質【アルミニウム及びその化合物】

16. その他の情報

引用文献等	化学物質総合検索システム（製品評価技術基盤機構） GHS 対応モデル SDS 情報（安全衛生情報センター） 日本産業衛生学会 許容濃度の勧告(2024 年度) GHS 混合物分類判定ラベル作成システム（製品評価技術基盤機構） JIS Z 7253（2019 年） JIS Z 7252（2019 年） 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の運用について 最終改正 平成30年12月 3日 薬生発1203第1号・20181101製局第1号・環企発第1811273号 粉状物質の有害性情報の伝達による健康障害防止のための取り組みについて（都道府県労働 局長あて厚生労働基準局安全衛生部長通知）
-------	--

この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で注意しなければならない事項を簡素にまとめたもので、通常の取扱いを対象としたものです。

なお、記載内容は安全な取扱いを確保するための参考情報であって、いかなる保証をするものではありません。

特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施した上、ご利用下さい。

【SDS 終わり】